

牛久：学校周辺に見る自然

第15号 みずべ公園

2016年9月5日発行

＜ 夏の終わりに、みずべ公園を歩く ～ ② 昆虫・クモ ＞

9/1に歩いたみずべ公園、今回は昆虫とクモの仲間。



ヤブガラシの蜜を吸うヒメハラナガツチバチの雄(左)と、ハッカの蜜を吸うアカガネコハナバチ(右)。

まずはハチの仲間から、おなじみのヒメハラナガツチバチ。触角が長いので雄です。ヤブガラシの蜜を吸っていました。ハッカはここ数年数が減ったように思いますが、銅色に輝く小さなハチが来ていました。その名も、アカガネコハナバチ(銅小花蜂)。銅のことを赤金(あかがね)ともいうのです。ちなみに、黄金(こがね)は金、白金(しろがね)は銀、黒金(くろがね)は鉄のこと。



ハッカ(左)とヒナタイノコズチ(右)の蜜を吸う、ヤマトシジミ。

続いて、チョウの仲間からシジミチョウの仲間、ヤマトシジミ。ハッカとヒナタイノコズチで、蜜を吸っていました。シジミチョウの仲間では他に、ベニシジミ、ウラナミシジミも見かけました。



チョウというと「花の蜜を吸う」というイメージが強いですが、蜜しか吸わないわけではなく、中には蜜以外のものしか吸わないものもいます。左のキタキチョウは、この時期はハギの花でよく見かけ、いろいろな花の蜜を吸いますが、この日は泥水を吸って水分とミネラルを補給していました。図鑑によると、「オスは好んで吸水し、獣糞にも集まる」そうです。

泥水を吸い水分とミネラルを補給するキタキチョウ。



タテハチョウ科の仲間、サトキマダラヒカゲ(左)とツマグロヒョウモン(右)。足の数に注目！

こちらはタテハチョウ科の仲間、サトキマダラヒカゲとツマグロヒョウモン。足の数に注目して下さい。昆虫ですから、足は6本のはずですね？でも、数えてみると4本しかありません。天敵に食べられてしまうこともあるでしょうが、どれを見てもやはり6本です。じつは前足が退化して小さく折りたたまれていて、よく見ないと気がつかないくらいになっているのです。もはや歩いたりつかまったりはできませんが、細かい毛が生えていて味を感じることができるのだそうです。サトキマダラヒカゲは樹液を吸っているのをよく見ますが、獣糞や果実にも集まるそうです。ツマグロヒョウモンは分布を北に拡大しており、温暖化の影響もあるのではないかと注目されています。



おなじみのアブラゼミ(左)とツクツクボウシ(右)。

ミ」といわれるツクツクボウシもたくさん鳴いていました。このセミの雌は産卵管が飛び出しているのが特徴の一つなので、写真は雄だと分かります。

セミは、アブラゼミがまだうるさいくらいに鳴いていました。産卵から孵化まで300日、その後5年間幼虫で過ごし成虫になると2～3週間しか生きないと言われます。が、県内の小学5年生が、最長で25～27日生きることを夏休みの自由研究で確認しました。たくさんのセミを捕まえてはマジックで印をつけて放すことをくり返すという、とても労力と根気のいる研究で、素晴らしいと思います。このような研究が、もっと高く評価されるといいのですが…。他には、「夏の終わりを告げるセ

その他、トンボはシオカラトンボやギンヤンマ、ウチワヤンマ、バッタはコバネイナゴやトノサマバッタ、クルマバッタ、ショウリョウバッタ、クモはナガコガネグモやジョロウグモを多く見かけ



ました。エゴノキの虫こぶ、エゴノネコアシフシは、もう中のアブラムシは出て行ってしまったようです。

【理科支援員：宮内】



コバネイナゴ(①)、ワシグモ科(②)、エゴノネコアシフシ(③)、ナガコガネグモ(④)、シオカラトンボ(⑤)